

「東京高尾野会」35年の歩み



東京高尾野会

はじめに

東京高尾野会の設立の経緯

東京高尾野会活動の概要

- (1) 会則の制定と一部改正
- (2) 会員名簿の整備と発行
- (3) 総会の開催
- (4) ふるさと発展を考える集い
- (5) 会報の発行
- (6) 35年間の主な活動の概要

終わりに

参考資料

歴代会長・副会長・幹事長名

設立時の役員名

設立以来会を支えた幹事名

(昭和52年から平成23年まで)

現在の役員名

東京高尾野会会則

高尾野町内地域の5区分

はじめに

東京高尾野会は、「東京近辺に在住する高尾野町出身者の親睦をはかり、あわせて郷土の発展に寄与する」ことを目的に昭和51年（1976）に発足してから35年経過した。

本会が所期の目的どおり「郷土愛に結ばれた親睦組織」として立派にその使命を果たし、郷土の発展に寄与していることを設立に関与された先輩方、会員並びに郷土の人々にも広く、知っていただくと共に本会が末永く進展することを願い、「東京高尾野会」が歩んだ35年をまとめた。

1. 東京高尾野会の設立の経緯

昭和50年12月、時の高尾野町鳥丸正登町長と徳留総務課長が、関係省庁との業務打合せに上京の際、鳥丸町長から「高尾野町の人口の1割が東京近辺に暮らしている。高尾野町出身者の親睦会を結成し、これが郷土の発展に繋げられないか。」と親睦会の結成を要請して帰町。早速各集落の区長(当時は駐在員)さんに調査を依頼し、東京近辺在住者の名簿を送っていただいた。

この名簿を基に轟木昭俊(現相談役)さんが、都内在住者に声を掛け高尾野町内の5地区別(東部、中部、西部、北部、江内)の準備委員を決め「東京高尾野会」設立準備会を設置した。この頃はパソコン、通信機能、事務機器など普及しておらず全くの手作業で、委員は本務の傍ら、休日は自宅から関係者・各委員と連絡しながら約6カ月かけて名簿を整備し、同時に会則の検討・設立総会の運営・設立後の会の運営などについて協議した。当時は市町村単位の親睦を目的にした「ふるさと会」の事例は少なく、手探りで親睦会の結成を前提に東京近辺在住者全員(約900名)に設立総会の開催通知を発送した。

昭和51(1976)年10月2日、今は無くなった「虎ノ門共済会館」に高尾野町から鳥丸町長初め町議会議員、農協長など35名、会員となる300名ほどが集まり「東京高尾野会」の設立総会を開催した。会の設立に当たり政治、宗教活動などに利用されるのではないかと懸念する向きもあつたが「ふるさとの発展を考える」純粋な郷土愛に結ばれた親睦組織として発足して今日に至っている。

「東京高尾野会」設立準備委員

顧問	鬼塚 辰次(大和)	伊牟田 良秋(下高尾野上)	軸菌 清吉(西水流)
	南 隆蔵(西水流)	宮下(岡野) 秀利(野口)	林 隆善(野口)

委員

東部	轟木 昭俊(松ヶ野)	村上 有孝(松ヶ野)	西 重徳(大久保)	
中部	荒木 幹雄(柴引)	梅木 富士郎(東町)	佐藤 功(中里)	田中 正彦(麓)
西部	竹下 満徳(下高尾野上)	田代 壽男(石坂)		
北部	中牟礼 幸雄(東水流)	東 登(西水流)		
江内	高松 義悌(南方)	椎木 満(西下り松)	山村 学(小島)	
	山村 忍(小島)	畦浦 新一(連尺野)	尾崎 洋(冷筋)	

2. 東京高尾野会の活動

設立の準備段階では名簿の整理、会則の検討、総会の開催通知、設立総会、発足後は概ね3ヶ月毎に役員会を開催し、活動のあり方・方向について会員並びに町当局とも話し合いながら活動を推進した。会の運営資金は、会費、会員からの募金・寄付金、高尾野町、同農協（不定期）の助成（市町村合併まで）、会員名簿の販売代金等で賄った。35年間の活動の概要は以下のとおりです。

(1) 会則の制定と一部改正

活動の根幹である会則は、設立準備会で入念に検討し、昭和51年の設立総会で承認・制定された。その後、日時の経過とともに必ずしも会の運営など、会員の要望に答えられない事項も出てきた。そこで会員の要望に副うべく会員全員にアンケート調査を行い、会員の資格、高尾野町の地域・集落の追加、役員数とその役割分担、会計年度、総会の開催に関する事等制定以来5回（昭和54年・62年・平成7年・10年・12年）改正した。年次毎の主な改正事項は次のとおりです。

昭和54年 会員の資格に「関東近県に在住」を挿入。

昭和62年 会員資格の「関東近県」を削除し、「原則として東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県およびその近傍に在住、在勤または在学する通常会員並びに特別会員」を挿入。

平成7年 高尾野町内の地域を7区分から5区分とし、新しく発足した集落など追加。
役員数の変更と顧問の設置。

平成10年 第1条の「東京・高尾野会」の名称を「東京高尾野会」に改称する。
役員の新設と職務を明確化した。

平成12年 会則の第4・5・6・7・8・9条を追加、特に役員の役割分担と職務内容、会費の徴収と会計年度の明確化、総会の開催に関する事。

など時宜に合わせて改正した。（現会則の全文は、第23回総会資料に添付してあります。）

(2) 会員名簿の整備と発行

会員名簿は、集落、友人、知人、学校の同期・先輩・後輩、それに新規加入会員などを知ることにより相互の親睦と連携が一層深められ、これが郷土の繁栄に繋がるもので、当会の活動の活性化には欠かせないものです。

名簿は、会則第5条（発足時は第4条）に基づき、初版を昭和51年（名簿搭載者数840名）に発行し、以後、転勤、住所の変更・移動、搭載漏れ、新規加入者の追加、記載事項の誤りなど入念に修正し、昭和54年（第2版）、昭和62年（第3版）、平成7年（第4版）、平成12年（第5版）、平成16年（第6版名簿搭載者数1027名）まで発行した。

名簿の配列は、第4版まで高尾野町の地域別、集落別に搭載していたが、第5版から検索機

能による整備並びに利用者の利便性に配慮し、会員の姓（名字）の頭文字の五十音順配列に改めた。

近年、本名簿が政治・宗教活動、商業用途などへの悪用が懸念されることから、第6版（平成16年12月発行）をもって会員名簿の発行を中止（第21回総会決議）しています。

ただし、新規加入会員、会員の住所の変更、帰郷者、逝去者については、名簿担当幹事が会員からの情報を基に入念に加除修正して事務局に保管しています。

なお、会員名簿の作成に当たって、公務多用中にも拘わらず格別のご協力を賜った高尾野町当局、また通信機能など未普及の中で、正確を期するためにご努力された役員各位の尽力に感謝し厚くお礼申し上げます。

「東京高尾野会」会員名簿の発行年と搭載人数など

版数	発行月日	発行時	名簿搭載人数
初版	昭和51年10月	設立総会	840名
第2版	昭和54年10月	第4回総会	760名
第3版	昭和62年10月	第9回総会	990名
第4版	平成7年10月	第13回総会	1,070名
第5版	平成12年10月	第16回総会	960名
第6版	平成16年12月	第18回総会	1,027名

第6版発行から新規加入者を加え、住所の移動、帰郷者、逝去者を差し引き、現在（平成23年8月末）の名簿搭載人数は1,099人、うち帰郷者12人、逝去者22人で実質搭載者数は1,065名です。

(3) 総会の開催

総会は、“さしかぶいかたろはん！みんなよって”を合言葉に、高尾野を「ふるさと」にしている人が、東京で一堂に会し、高尾野弁で小・中学校時代のこと、ふるさとで頑張っている友人のことなど語り、お互いの健康と笑顔を確認し合う年一回の会合です。

総会には市長（町村合併までは町長）、議会議長、教育長、農協長（市町村合併まで）、市の担当者、ふるさと館の人など出席され、一年間の事業内容・会計報告、郷土の近況報告（市長、議長、高尾野支所長ほか）、会員の情報（返信ハガキからの近況・コメント集）の配布、懇親会（懇談、ビンゴ、カラオケ、歌謡ショー、輪になって『高尾野音頭』などの手踊り、ふるさと特産品・焼酎などの豪華景品つきの福引）、高尾野町からの懐かしい香りの芋焼酎、みかんなどのお土産を頂き、併せてふるさと産品の展示・即売。それに開・閉会の前後には「高尾野音頭」のBGMが流れ、帰省しないで高尾野の空気を満喫して次回の再会を約束する楽しい一日です。

総会の開催場所は駅から近くて分かり易く、交通が便利で馴染みの場所を。と会員の希望を叶えるように配慮していますが、予算の関係で役員の知り合い、または関係している施設を選定せざるを得ず、これまで大手町サンケイ会館で6回、三州クラブ、九段会館で4回、虎ノ門共済会館で3回、東海大学・校友会館（霞ヶ関ビル）で2回、飯田橋会館、NHK会館、東芝スクエアビル、新宿モノリスビルで各1回、計23回開催した。

なお、総会は、昭和51年の設立総会から第6回までは毎年開催していたが、新たな出席者も少なくなり毎年開催する必要はない。総会の開催場所・総会の進め方などに対する希望や意見が出てきたので、会員全員を対象にアンケート調査し、第7回総会から第20回総会まで隔年ごとに開催することとした。ところが、近年、参会者の年齢が偏り、特に昭和30年代以降生まれの会員の参会者が減少したこと。毎年開催してこそ親睦会の意義がある。などの希望が多くなり、第21回総会から会則第5条を適用して毎年開催することとした。

設立総会から現在までの総会の開催月日・場所は次に掲げるとおりです。自分が出席した総会の場所、会場の情景、参会者との懐かしい話など回顧してみてください。

総会の開催年月日と開催場所及び参加人数

開催回数	開催月日	場所
第1回	昭和51年10月2日	虎ノ門共済会館（設立総会）
第2回	昭和52年11月26日	虎ノ門共済会館
第3回	昭和53年10月7日	虎ノ門共済会館
第4回	昭和54年10月27日	三州クラブ
第5回	昭和55年11月2日	三州クラブ
第6回	昭和56年10月3日	三州クラブ
第7回	昭和58年10月1日	三州クラブ
第8回	昭和60年10月5日	飯田橋会館
第9回	昭和62年10月3日	東海大学・校友会館（霞ヶ関ビル35階）
第10回	平成元年10月14日	NHK会館13階食堂
第11回	平成3年10月12日	東芝スクエアビル16階
第12回	平成5年10月9日	新宿モノリスビル29階 モノリス29
第13回	平成7年10月14日	大手町サンケイ会館6階
第14回	平成8年10月12日	大手町サンケイ会館6階 創立20周年記念祭
第15回	平成10年10月18日	大手町サンケイ会館6階
第16回	平成12年10月14日	大手町サンケイプラザ
第17回	平成14年10月13日	大手町サンケイプラザ
第18回	平成16年10月16日	大手町サンケイプラザ
第19回	平成18年10月14日	九段会館 創立30周年記念祭

第20回	平成20年10月11日	九段会館
第21回	平成21年10月24日	九段会館
第22回	平成22年10月30日	九段会館
第23回	平成23年10月29日	東海大学・校友会館（霞ヶ関ビル35階）

(4) ふるさと発展を考える集い

総会を開催しない中間年（昭和57・59・61・63年、平成2・4年）には、全国市町村長会議、全国市町村議会議長会議に出席された町長、町会議長・町会議員、教育長、町の担当者を交えて、当会の役員・会員の代表と東京都内で「高尾野町の町政、学校教育の現状」などについて情報交換会を開催した。

この情報交換会を平成6・9・11・13・15・17年には、「ふるさと発展を考える集い」と名称し、東京都内と高尾野町で「ふるさとの発展に関わる率直な意見の交換と提言」を行った。特に平成13年には当会の会長、副会長、幹事長他10数名が高尾野町役場に出向き、平成17年には町長、町議会議員全員出席により東京都で意見交換会を開催した。

なお、出水市との合併後は、高尾野支所の総務課長を窓口にて、電話、FAX、手紙による意見・情報の交換を行い、出水市本庁の担当者とも随時協議しており「広報いずみ」を当会幹事に配布し、ふるさとの現況理解に役立てている。

「ふるさと発展を考える集い」の開催場所および月日

第1回	平成6年10月27日	東京都・南青山会館
第2回	平成9年12月1日	東京都・南青山会館
第3回	平成11年11月29日	東京都・三州クラブ
第4回	平成13年11月20日	高尾野町役場

東京高尾野会から轟木会長、椎木副会長、白川幹事長他10数名参加した。

第5回	平成15年12月1日	東京・九段会館
第6回	平成17年10月26日	東京・九段会館 平原町長、町議会議員全員出席

(5) 会報の発行

本会の活動状況、会員の情報、故郷の現況を会員に知らせることを目的として、会報第1号を平成12年に発行し、以来第6号（平成23年）まで隔年ごとに発行した。

会報の主な掲載内容は、当該年度の総会の状況、市長、議会議長、教育長による「ふるさとの近況」、「広報たかおの」、「広報いずみ」の抜粋、高尾野町を中心とした行事、小中学校の紹介、こどもたちのふるさと便り、「中の市」の模様、「覚えていますか。高尾野の方言とその通訳」、会員の近況（総会出席の返信はがきのメッセージ）、会員の投稿記事などを掲載している。

会報の発行年次と号数及び巻頭言

号数	発行年月日	巻頭言(タイトル)
第1号	平成12年 9月 7日	東京高尾野会第16回総会
第2号	平成14年 9月 6日	東京高尾野会第17回総会
第3号	平成16年 9月 7日	設立28周年東京高尾野会第18回総会案内
第4号	平成18年12月22日	創立30周年を迎えさらなる発展を祈る
第5号	平成21年 2月20日	創立32周年を迎えさらなる発展を祈る
第6号	平成23年 8月20日	第23回総会を迎えて深めよう“絆を”

(6) その他の主な活動

35年間の活動の概要については、概略記述しましたが、その他の不定期的な活動は以下の通りです。

- ① 「総会に関するアンケート調査」、「会員の動向調査」。
- ② 「高尾野町内小中学校へ図書の寄贈」。
「高尾野小学校吹奏楽部全国大会出場（茨城県水戸市）」時の現地での支援・激励。
「全国中学校陸上競技大会出場（東京都）」時の会場での支援・激励。
- ③ 「全国青年大会郷土芸能部門〔兵六踊り〕出演（東京都）」時の会場での支援・激励。
- ④ 関係ふるさと会《関東鹿児島県人会連合会、出水市内三会（関東ふるさと出水会、東京野田会、東京高尾野会）》との情報交換・連絡会の開催。
- ⑤ 「渋谷鹿児島おはら祭り」への参加。
- ⑥ 会員による春秋のゴルフ大会、出水市三会のゴルフ大会への参加。
- ⑦ 高尾野町金婚祝賀会に祝賀テレホンカードを贈呈。（平成6年）
- ⑧ 町温泉センター落成記念に祝電、置物・横額を贈呈。（平成7年）
- ⑨ 総会年次に「喜寿」を迎えた会員に「喜寿の祝い」として記念品の贈呈。など。

終わりに

東京高尾野会は、高尾野を故郷とする人が、ふるさとを思い、懐かしい人との出会いの場として気楽に参加する者の集まりです。

今回、「東京高尾野会35年の歩み」を纏めるにあたって、当会の設立から運営に心血を注がれた歴代の会長・副会長・幹事長をつとめられた先輩方の中には鬼籍に入られ、また体調を崩されており、発足からの活動・今後の方向についての声を聞くことが出来なかったのが残念で、いまさら時の流れを痛感しました。

現在、会員の約60%は60歳以上で、ここ数年の総会の参会者は概ね120名内外です。それも年齢に偏りがあり、昭和30年以降生まれの会員の参会者が少なくなっています。今後とも「東京高尾野会」が所期の目的に副い、末永く進展するためには若い会員の維持・確保は不可欠であり、同集落の既会員、学校の同期会などを通じて、若い会員が気楽に参加できる雰囲気創りに努めることが必要です。年代は違っても「郷土のよしみ」として気軽に参加し、ふるさとを思い、生まれ育った近所の人との懐かしい出会いの場所として楽しみましょう。昨年からは役員（幹事）に昭和40年前半生まれの会員も入っています。

また、出水市内の「ふるさと会」は、「東京高尾野会」、「関東ふるさと出水会」、「東京野田会」の三会が存在し、夫々の会の設立には経緯と歴史があり、当会としては当面は三会と連携しながら個別に活動していくこととしています。

最後になりましたが、「東京高尾野会」が35年の長きに亘り活動を継続しているのは、発足時の鳥丸正登町長（助役 安楽義春・段原清治氏）、池田正明町長（助役 鳥丸卓一氏）、平原三男町長（助役 野内清隆氏）、歴代の町議会議員、教育長、総務課長、農協長、出水市発足後は渋谷俊彦市長、市議会議員などの深いご理解のもと財政・運営面における暖かい支援の賜物です。

また、発足から会の運営に献身的に携わってきた多くの役員・会員のご協力のお陰と深く感謝申し上げます。「東京高尾野会」がふるさとの発展に末永く貢献できることを祈念します。

終わり

参 考 資 料

「東京高尾野会」の 歴代会長・副会長・幹事長名簿

(1) 会 長

代	氏 名	在 任 期 間	集 落	備 考
初代	鬼塚辰次	昭和51年～昭和56年	大和	平成5年12月逝去
2代	伊牟田良秋	昭和56年～平成元年	下高尾野上	平成2年11月逝去
3代	南隆蔵	平成元年～平成5年	西水流	平成8年5月逝去
4代	轟木昭俊	平成5年～平成21年	松ヶ野	現相談役
5代	高松義悌	平成21年2月～現在	南方	現会長

(2) 副 会 長

氏 名	在 任 年	集 落	備 考
伊牟田良秋	昭和51年～昭和56年	下高尾野	平成2年11月逝去
宮下(岡野)秀利	昭和51年～昭和62年	野口	昭和63年5月逝去
林隆善	昭和52年～昭和62年	野口	平成元年3月逝去
南隆蔵	昭和52年～昭和62年	西水流	平成8年5月逝去
轟木昭俊	昭和52年～平成5年	松ヶ野	現相談役
東道雄	昭和60年～平成元年 平成7年～平成19年	西水流	1回目 2回目
尾郷良幸	昭和60～平成元年	麓	現監事
竹下満徳	昭和62年～平成13年	下高尾野上	平成13年11月逝去
荒木幹雄	昭和62年～平成14年	柴引	
梅木富士郎	平成7年～平成16年	東町	平成16年6月逝去
椎木満	平成11年～平成18年	西下り松	
猪原斉	平成14年～平成20年	上水流	
児玉光子	平成14年～平成20年	麓	
山村忍	平成17年～平成20年	小島	
唐沢衣	平成20年～現在	町	
唐崎富夫	平政20年～現在	唐笠木	

(3) 幹 事 長

氏 名	在 任 年	集 落	備 考
轟木昭俊	昭和51年～昭和52年	松ヶ野	現相談役
竹下満徳	昭和52年～昭和62年	下高尾野上	平成13年11月逝去

梅木 富士郎	昭和62年～平成7年	東町	平成16年6月逝去
椎木 満	平成7年～平成11年	西下り松	
白川 栞	平成11年～平成14年	上水流	平成20年7月逝去
高松 義悌	平成14年～平成20年	南方	現会長
山村 忍	平成20年1月～12月	小島	
窪田 勝	平成21年～現在	上り立	

(4) 設立時(昭和51年10月)の役員名

会長	鬼塚 辰次(大和)		
副会長	伊牟田 良秋(下高尾野上)	宮下(岡野) 秀利(野口)	
幹事長	轟木 昭俊(松ヶ野)		
幹事	東部	轟木 昭俊(兼)(松ヶ野)	村上 有孝(松ヶ野)
		西 重徳(大久保)	
	中部	荒木 幹雄(柴引)	梅木 富士郎(東町)
		佐藤 功(中里)	田中正彦(麓)
	西部	竹下 満徳(下高尾野上)	田代 壽男(石坂)
	北部	中牟礼 幸雄(下水流)	東 登(西水流)
	江内	高松 義悌(南方)	椎木 満(西下り松)
		山村 学(小島)	山村 忍(小島)
		畦浦 新一(連尺野)	尾崎 洋(野口)
相談役	軸 菌 清吉(西水流)	林 隆 善(野口)	南 隆 蔵(西水流)

(5) 設立以来(昭和52年～平成23年まで)会を支えた幹事

東部	轟木 昭俊(松ヶ野)	村上 有孝(松ヶ野)	梁瀬 行成(松ヶ野)	
	西 重徳(大久保)	柏木 一邦(松ヶ野)	肘黒 辰美(松ヶ野)	
	窪田 勝(上り立)	先崎 義一(松ヶ野)	上山 栄子(大久保)	
中部	荒木 幹雄(柴引)	梅木 富士郎(東町)	佐藤 功(中里)	
	田中正彦(麓)	津田 文雄(柴引)	大磯 大行(町)	久保 昭史朗(麓)
	児玉 光子(麓)	橋元 勝久(平八重)	前田 幸徳(柴引)	
	前田 稔(柴引)	富岡 矩子(麓)	唐沢 衣(町)	中道 敬子(町)
	迫 武裕(町)	堀内 則子(麓)	木下 孝司(麓)	市来 博文(柴引)
	片野坂 誠(野添下)			
西部	竹下 満徳(下高尾野上)	田代 壽男(石坂)	山野 義治(内野々下)	
	上村イツ子(下高尾野上)	榎菌喜美江(表上)	石橋 義忠(唐笠木)	
	野元 文夫(内野々上)	唐崎 富夫(唐笠木)		

北 部	中牟礼 幸雄 (東水流)	東 道男 (西水流)	東 登 (西水流)
	猪原 斉 (上水流)	白川 栞 (上水流)	見附 輝志 (東水流)
	軸菌 勝久 (西水流)	軸菌 洋 (西水流)	高柳 由美子 (上水流)
江 内	椎木 満 (西下り松)	高松 義悌 (南方)	山村 学 (小島)
	山村 忍 (小島)	畦浦 新一 (連尺野)	尾崎 洋 (野口)
	原田 一紀 (旧番所)	藤野 司 (冷筋)	椎木 隆雄 (西下り松)
	鈴木 芙美子 (旧番所)		

(6) 監 事 村上 有孝 (松ヶ野) 大磯 大行 (町) 尾郷 良幸 (麓)
下山 猛男 (千間山)

(7) 顧 問 南 隆蔵 (西水流) 鬼塚 辰次 (大和) 東 道男 (西水流)

(8) 相談役 軸菌 清吉 (西水流) 林 隆 善 (野口) 南 隆蔵 (西水流)
東 道男 (西水流) 轟木 昭俊 (松ヶ野) 村上 有孝 (松ヶ野)

現在 (平成23年 8月30日) の役員

会 長 高 松 義 悌 (南 方)

副会長 唐 沢 衣 (町) 唐 崎 富 夫 (唐笠木)

幹事長 窪 田 勝 (上り立)

幹 事 高 柳 由美子 (上水流) 前 田 稔 (柴引) 上 山 栄 子 (大久保)

畦 浦 新 一 (連尺野) 鈴 木 芙美子 (旧番所) 迫 武 裕 (町)

堀 内 則 子 (麓) 木 下 孝 司 (麓) 市 来 博 文 (柴引)

片野坂 誠 (野添下)

監 事 尾 郷 良 幸 (麓) 下 山 猛 男 (千間山)

相談役 轟 木 昭 俊 (松ヶ野) 村 上 有 孝 (松ヶ野)

註： 役員名簿は、総会資料・役員会の資料を基に作成しました。

東京高尾野会会則

第1条 本会は東京高尾野会という。

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、あわせて郷土の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会の会員は原則として東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県に在住、在勤または在学する
通常会員 (高尾野町出身者) 並びに特別会員 (高尾野町長及び高尾野町議会議長) とする。
目的を達成するため、必要に応じ、総会及び役員会を開催、会員名簿の発行などを行う。

2 前記4都県の近傍に在住、在勤または在学する高尾野町出身者で、本会の目的に賛同する
者は通常会員に加入できる。

第4条 本会に役員として会長、副会長若干名、幹事長、幹事若干名、会計監事2名を置く。また、本会に相談役を置くことができる。

- 2 前記の役員は総会において選任し、相談役は役員会で推挙した者とする。
- 3 役員任期は2年とする。但し、再任を妨げない。
- 4 役員職務は次のとおりとする。
 - ・ 会長は本会を代表してその運営を行う。
 - ・ 副会長は会長を補佐し、会長の不在の時は予め会長が指名した順位の副会長がその職務を代行する。
 - ・ 幹事長は本会事務を総括処理する。
 - ・ 幹事は本会の運営に必要な職務を行う。
 - ・ 会計監事は本会の会計を監査し、総会に報告する。
 - ・ 相談役は本会の運営についての相談にあたる。

第5条 本会の目的を達成するため、必要に応じ、総会及び役員会の開催、会員名簿及び会報の発行、郷土高尾野町との情報交流などを行う。

- 2 総会は2年に1回（1年置き）、10月に開催する。但し必要ある時は役員会の決定により随時開催することができる。
- 3 役員会は会長、副会長、幹事長、幹事及び会計監事で構成し、会長が召集する。

第6条 本会運営の円滑な推進を図るため、本会に次の委員会を置く。

- ① 財務委員会
- ② 企画委員会
- ③ 広報委員会
- ④ 組織委員会

- 2 副会長は会長の指名により何れかの委員会を担当し指導に当たるが、具体的な業務、定員等は別途定める。

第7条 本会は全ての会員から年会費を徴収し、会報、通信費等に充てることし、その額は役員会で決定する。

- 2 総会など本会行事への参加費は、役員会の決定によりその都度徴収する。
- 3 本会の運営に資するため、補助金、寄付金を受領することができる。

第8条 本会の会計は、会計担当役員が会長の承認を得て処理する。

- 2 会計年度は9月1日より翌々年8月末日までとする。
- 3 収支決算は会計監事及び役員会の承認を受け、総会で報告する。

第9条 本会則の改正は役員会が発議し、総会の承認により行う。

附 則

1. 本会則は昭和51年10月2日より施行する。
2. 昭和54年10月27日一部改正。
3. 昭和62年10月 3日一部改正。
4. 平成 7年10月14日一部改正。
5. 平成10年10月18日一部改正。
6. 平成12年10月14日一部改正。
7. 平成21年10月24日

年会費：会則第7条に基づく本会の会費は、会員一人当たり1,000円とする。

事務局：本会の事務局は会長の指定した場所とする。

預金口座：加入者名及び住所は会長が指定。

高尾野町内地域の5区分（平成12年度までは役員の選出の参考とした）

東 部 上の原 上り立 太鼓橋 千間山 松ヶ野 大久保 御岳 野平 浦 昭興も
本町 大野原

中 部 東町 町 中里 麓 大和 柴引 野添上 野添下 砂原 中屋敷 平八重
麓団地 萩の尾 柴引団地

西 部 本城 内野々上 内野々下 石坂 表上 下高尾野上 下高尾野下 唐笠木
鶴里 大里 昭和 平牟田

北 部 上水流 上水流団地 東水流 西水流 掛腰

江 内 西辺田 東辺田 野口 尾野島浜 平坊 柳ヶ水 旧番所 荒崎 冷筋 段
南方 上冷筋 木牟礼 木串 連尺野 小島 西下り松 東下り松 浦窪 上浦窪

=====
= 発行 東京高尾野会 =
= 発行者 高松 義悌 =
= 発行日 平成23年10月29日 =
= 事務局 〒164-0001 =
= 東京都中野区中野5-24-18 =
= (有) レビュー内 =
= TEL. 03-5318-5047 =
= FAX. 03-5318-5049 =
= 編集者 村上 有孝 (相談役) =
=====

表紙写真：福永写真館：福永隆志さん提供の「高尾野兵六踊り」
(高尾野青年団・高尾野兵六踊り保存会の皆様：平成23年11月第60回記念全国大会出場)